

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農業機械テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農業機械情報

Out on the Prowl
アメリカ

汎用自走式タンカー「プローラ」



ルーベンネイカー氏は、GVM社製汎用自走式タンカー「プローラ」に、栽培初期に用いる沈下抵抗のあるタイヤと条植え作物が成長した圃場で使用するタイヤの2種類のタイヤを用意している。



米国・イリノイ州南部のルーベンネイカー農場では3440haの圃場でトウモロコシ・小麦・大豆を栽培しているが、肥料・石灰・防除用薬剤を散布するに当たり、「スピード」、「汎用性」、「信頼性」を重視し、購入の判断基準としている。そこで、短い好天の期間に農作業が終えられるよう、GVM社製の汎用自走式タンカー「プローラSP」シリーズの最大モデル1149Tを使用している。

農場主のテリー・ルーベンネイカー氏は、ほかのモデルではトランスミッションが油圧駆動だが、これは機械駆動である点で、特に気に入っている。時速70kmでの高速走行やクミンズ社製の260馬力ディーゼルエンジンの高燃費にも魅力を感じているが、まだ特色がある。「プローラ」は信頼がおけ、メンテナンスもわずかで済む（同）と言った。

機体に装着した5700ℓのタンクと27mのブームを、粉粒状肥料を散布するドライ・スピナーボックス（回転羽根式散布装置）に交換するのは1時間で済む。農場で使用するのはスピナーボックス「ニューリーダー」は、内部に小型ホッパー「マルチアプライヤー」を装着すると、2種類の肥料の同時散布が可能になると同氏は話す。

Trike goes on tour
オランダ

2両連結の三輪タンク車



ヴェルヴァエト社の三輪タンク車XXLの旋回軸は後輪の車軸の間にあり、連結タンク車は自分で追走運転する（写真上）。さらに、連結タンク車の車軸を伸ばして、機体の接地面積を広げ荷重を分散する（写真右）。



オランダのヴェルヴァエト社が、請負作業用に積載容量を30%増加した三輪タンク車を製造した。このタンク車の標準モデルでは積載容量が14m³だったが、新型モデル「XXL」は自動追走式のタンク車を2両を1台連結することで、容量が10m³増えた。

よくできてはいるのが、けん引されるタンク車両の車軸を作業中に外側に張り出させる設計だ。機体重量を横幅ほぼ5mに分散でき、土壌への踏圧が減らせるうえ、わだち跡も小さくなる。

油圧駆動式の装着機への伝達パワーも増強され、作業荷重の増加に十分対応できる。この機種の標準モデルの駆動力が283kW/385馬力であるのに対し、新型モデルでは331kW/450馬力となっている。





Tractor market down by 11%
フィンランド

トラクタ販売台数が11%減



フィンランドの6万9000戸の現役農家は平均で32haの圃場と40haの森林を経営するが、購入するトラクタの台数は年々減っている。ヴァルトラが2位以下に大差をつけマーケットリーダーの地位を保つ。

フィンランドのトラクタ市場が昨年
に続き縮小している。2004年は前
年比で6%の減少だったが、2005
年は前年比で11%の落ち込みとなっ
た。2005年の販売台数は4500台で、こ
れはエンジン出力が20馬力から50馬力の小型トラク
タ225台も含んだ数字だ。販売減少には多くの
要因が絡む。何よりも重要なのが2004年の大
雨による不作、EUの農政改革、国内の農業政策
で、これらが複合した結果、販売不振となった。
フィンランドのトラクタ販売市場では、トラク
タの輸入販売を行う4社が、販売される全最新車ト
ラクタの98%を扱う。新車のトラクタの平均出力
は約115馬力。市場に出回る農用トラクタは11
ブランド。売上げで長年トップを占めてきたのが
ヴァルトラで、シェアは2004年より5%減少
したものの2005年は43%と圧倒的。これに続
くのが、ジョンディア(シェア18%)、ニューホラン
ド(12%)、マッセイファーガソン(12%)の各ブ
ランドだ。



Man takes on machine

ウクライナ

人間、機械に挑む

ウクライナの首都
キエフで開かれた農
機見本市「ランバ
ス・アグロテック」
でボガティスキー・イグリー(カ
持ちによる競技会)が開催され
たと、カザフスタンの通信員、アイ
グル・クサイノヴァ氏が伝えてき
た。参加者が挑戦するのは、13t
のコンバインハーベスタのけん
引、重さ36kgを背負った競走、
3トトレラの押し進めなどだ。
しかも、これらはほんの肩慣らし
に過ぎない。悪戦苦闘の末、地元
から参加したヴァシリジ・ヴィラ
スチユク氏が優勝した。



Manhindra toasts Aussie success

オーストラリア

豪州進出に成功したインド製トラクタ

インドの代表的トラクタメーカー、マヒンドラ社が、オース
トラリアの販売代理店3社を通じてトラクタの試験販売を始
めたとのニュース(「プロフィ」誌通信員グラハム・フューラ
ー氏の記事)が掲載されたのはわずか12ヶ月前のことだった。
1年が経ち販売代理店の数は今や20社に増えた。写真は、同社の海外部門
責任者のV・S・ハ
ルサラシー氏(左)
とマヒンドラ・オー
ストラリアの経営者
ギジュ・クリアン氏
が乾杯している場面
だ。マヒンドラ社は、
自社発表によると世
界で5番目に大きな
トラクタメーカー。

